



未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月8日

本日の内容

- 1 連結業績結果（2020年3月期第2四半期）
- 2 連結業績予想（2020年3月期通期）
- 3 事業別取組
- 4 持続的成長に向けた取組
- 5 次期中期経営計画について

連結業績結果 ~ 2020年3月期第2四半期 ~

(億円、%)

	2019年3月期 (上期)	2020年3月期 (上期)	増減額	前期比	予想比
売上高	3,053	3,116	+62	102.0	100.2
営業利益	95	106	+10	110.9	104.3
経常利益	102	117	+14	114.4	107.6
純利益	64	77	+12	120.0	115.0

親会社株主に帰属する四半期純利益

- ▶ 前年同期比：増収増益
- ▶ 当初予想比：概ね当初予想通りの着地

2020年3月期 取組進捗

環境変化への対応

- 市乳商品の価格改定の実施

事業ポートフォリオの変革

- 重点カテゴリーへの取組み強化による販売拡大
- 海外事業の拡大
- ニュートリション事業の拡大 等

連結業績予想 ~2020年3月期通期~

(億円、%)

経営成績	2019年3月期	2020年3月期	増減額	前期比
売上高	6,033	6,150	+116	101.9
営業利益	172	180	+7	104.5
経常利益	190	195	+4	102.6
純利益	107	120	+12	111.6

親会社株主に帰属する当期純利益

配当

普通配当	40円	連結配当性向	22.6%
------	-----	--------	-------

2020年3月期の事業別取組



1. 乳製品事業分野

バター、油脂、
チーズ(国内・海外)



2. 市乳事業分野

牛乳・乳飲料、ヨーグルト、
果汁・野菜・清涼飲料、
デザート



3. ニュートリション事業分野

粉ミルク(国内・海外)、
機能性食品 など



4. 飼料・種苗事業分野

飼料、
種子(牧草・飼料作物・野菜)、
造園 など

事業別取組 ~ 乳製品事業分野 ~



2020年3月期上期業績結果

【乳製品セグメント】 ニュートリション事業を含む

(億円、%)

	上期実績	前期比	予想比	通期予想	前期比
売上高	1,220	103.9	100.0	2,509	104.1
営業利益	52	97.0	93.0	121	102.9

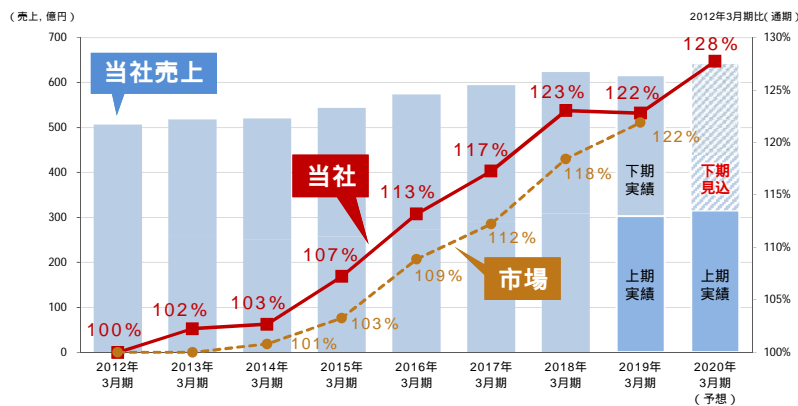
- ▶ バター：安定供給の継続
- ▶ 油脂：プロモーション展開による需要喚起
- ▶ チーズ：主力商品の販売拡大

事業別取組 ~ 国内チーズ ~



▶ 当社チーズの売上推移

国内家庭用チーズ市場は底堅い需要を背景に堅調に推移



市場：インテージSCI

事業別取組 ~ 国内チーズ~



▶ 下期施策

好調な
ナチュラルチーズの
販売



新商品投入による
プロセスチーズの販売強化

付加価値の高い新商品と連動するプロモーションで販売強化

期待のスモーク味を新発売



6Pの食シーン訴求の新CM



Copyright © Megmilk Snow Brand Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

事業別取組 ~ 海外チーズ~

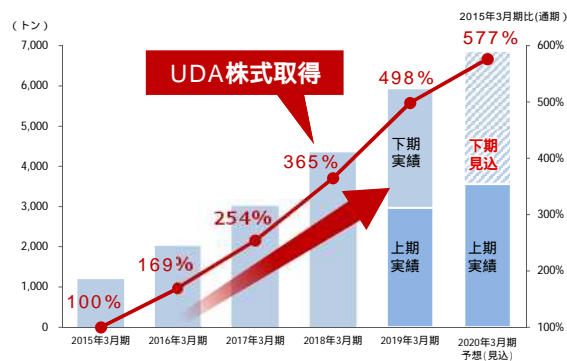


▶ 海外チーズ事業の展開



3社のチーズ
販売物量推移

- ・雪印オーストラリア(SBA)
- ・雪印メグミルクインドネシア(SMBI)
- ・アダーデライツオーストラリア(UDA)



Copyright © Megmilk Snow Brand Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

事業別取組 ~ 市乳事業分野 ~



2020年3月期上期業績結果

【飲料・デザート類セグメント】

(億円、%)

	上期実績	前期比	予想比	通期予想	前期比
売上高	1,472	101.4	100.6	2,809	100.4
営業利益	35	159.9	118.6	39	123.1

- ▶ 全体：市乳商品の価格改定の実施
- ▶ ヨーグルト：ガセリ菌SP株ヨーグルトの販売強化
- ▶ デザート：シェアNO.1の継続

事業別取組 ~ 市乳価格改定 ~



▶ 原料乳のコストアップ対応で価格改定を実施

< 対象商品 >

牛乳類、乳飲料、ヨーグルト、デザートで実施

< 改定内容 >

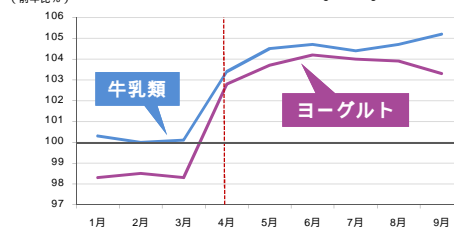
市販用：メーカー希望小売価格 …………… (改定率：2.2～6.1%)

宅配用：メーカー出荷価格 …………… (改定率：1.7～4.0%)

価格改定は概ね順調



【店頭価格前年比推移(当社)】



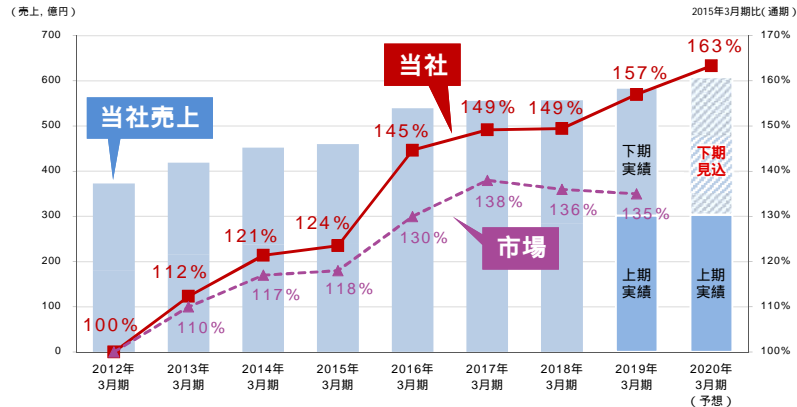
インデックス

事業別取組 ~ ヨーグルト ~



▶ 当社ヨーグルトの売上推移

当社家庭用ヨーグルトは堅調に推移



市場：インテージSCI

事業別取組 ~ 機能性ヨーグルト ~



▶ 機能性ヨーグルトの活性化

ガセリ菌SP株ヨーグルト商品群



コミュニケーションに連動した
店頭活動の強化

+

乳酸菌ヘルベヨーグルト

1月新発売



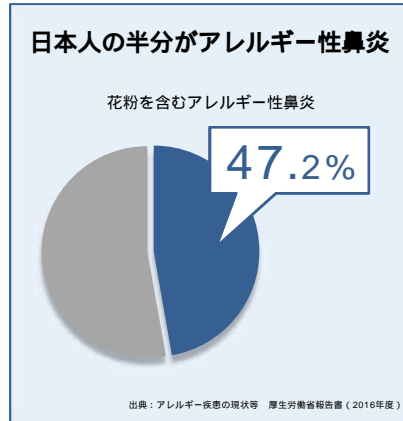
新商品のプロモーション強化による
認知拡大

機能性ヨーグルトの販売拡大

事業別取組 ~ 機能性ヨーグルト ~



▶ 発売の背景



QOL
(Quality of Life = 生活の質)
の改善が社会課題の1つ



食品メーカーとして
何ができるかを検討

事業別取組 ~ 機能性ヨーグルト ~



▶ 乳酸菌ヘルベヨーグルト



届出番号：E9

「目や鼻の不快感を緩和する」機能を
有する機能性表示食品のドリンクヨーグルト

ヨーグルト市場初

目・鼻(めはな)対策のヨーグルト

「目や鼻の不快感を緩和する」機能で、機能性表示食品の届出が完了

QOL (Quality of Life = 生活の質)
の改善に貢献し、新たな市場を創造

【届出表示】本品には *L. helveticus* SBT2171(乳酸菌ヘルベ)が
含まれるので、目や鼻の不快感を緩和します。

【機能性関与成分】*L. helveticus* SBT2171(乳酸菌ヘルベ)



本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。また、特定保健用食品とは異なります。食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

事業別取組 ~ニュートリション事業分野~



2020年3月期上期業績結果

ニュートリション事業

乳製品セグメントのうち

(億円、%)

	上期実績	前期比	予想比	通期予想	前期比
売上高	96	98.6	96.2	201	103.3
(内訳)					
機能性食品	26	112.5	100.9	53	111.0
粉ミルク等	69	94.3	94.5	148	100.8

- ▶ 機能性食品：ロコモ関連商品の販売拡大
- ▶ 粉ミルク等：新商品の発売による商品力強化

「ロコモティブシンドローム」(略称：ロコモ)：運動器の障害により、歩行や日常生活に支障のある状態。

事業別取組 ~ニュートリション事業分野~



▶ 上期

毎日骨ケアMBP®を中心として
ロコモ関連商品が順調に伸長(前年比112.5%)



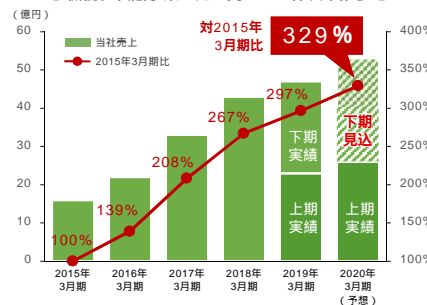
▶ 下期

MBP®を活用し、
ターゲットを
若年層にも拡大



ベルネージュダイレクトとの
連携をさらに強化

【機能性食品事業の売上および伸長率推移】



事業別取組 ～ 飼料・種苗事業分野～



2020年3月期上期業績結果

【飼料・種苗セグメント】

(億円、%)

	上期実績	前期比	予想比	通期予想	前期比
売上高	238	99.9	100.8	452	98.2
営業利益	11	93.9	114.1	9	77.3

- ▶ 種苗事業：自社商品開発と効率化への取り組み
- ▶ 飼料事業：総合提案型営業の推進

事業別取組 ～ 飼料・種苗事業分野～



▶ 上期

2019年4月1日
新飼料工場建設のための合併会社
「ホクレンくみあい・雪印飼料(株)」を
苫小牧で設立



▶ 下期

新飼料工場
2019年12月着工予定
2021年12月稼働予定

種苗生産管理システムの構築
2020年3月稼働予定



緑肥種子 業界 No.1

持続的成長に向けた取組

2018年9月

雪印メグミルクCSR方針改訂

企業理念に基づき、事業活動を通じて、
社会とともに持続的に発展していくための経営を推進

5つのCSR重要課題(マテリアリティ)を特定

乳(ミルク)
による食と
健康への貢献

環境負荷の
低減

持続可能な
酪農への貢献

多様な人材が
活躍できる
職場の実現

地域社会への
貢献

持続的成長に向けた取組

2019年8月

重要課題ごとのKPIを決定 今後進捗状況を公開



- (例) CO₂排出量を2030年度までに2013年度比30%削減
廃棄物排出量を2030年度までに2013年度比30%削減
食育活動により、2019～2026年度で年間平均4.5万人の参加者数を旨す。

詳細はHPまたは「雪印メグミルクグループ2019」をご覧ください。

SDGsの17のゴールのうち
13の目標に向けて取組みます



次期中期経営計画について（2020年5月発表予定）

長期ビジョン2026

ロードマップ

	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
	2017-2019 年度	2020-2022 年度	2023-2026 年度
位置付け	Transformation （変革）の始動 グループ経営の 始動・推進	Transformation （変革）の加速 グループ経営の 展開強化	Renewal（進化）へ グループ経営の 加速・進化
役割	収益基盤の複数化および キャッシュ・フローの 最大化 生産体制進化への着手	収益基盤の確立 生産体制進化の本格始動	4事業分野による 収益の安定的創出 調達・生産体制の確立

未来は、ミルクの中にある。



本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の予想数値と異なる場合があります。